

令和8年度 施設管理運営事業評価票(令和7年度実施分)

1 評価対象施設

公の施設の名称		宝塚市立男女共同参画センター			
所在地		宝塚市栄町2丁目1番2号 4階			
指定管理者	団体名	NPO法人 女性と子どものエンパワメント財団	指定期間	開始日	令和4年4月1日
	所在地	宝塚市中野町4-11		終了日	令和9年3月31日
選定方法		(公募)・非公募		評価実施年	指定期間5年のうち4年目
施設設置目的		男女共同参画の推進			
主な実施事業		上記目的達成のための(1)情報収集及び提供(2)諸問題に係る相談(3)啓発及び学習に関すること。ならびに男女共同参画推進を目的として活動している団体への(1)活動拠点の提供と交流・連携の促進(2)団体の育成に関すること。			

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
		目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
a 利用人数(人)	人	55,500	37,343	55,500	38,408	55,500	41,123	55,500	41,214
b 稼働率(%)	%	52.0	47.0	52.0	45.0	52.0	47.5	52.0	48.4
c 図書貸出率(%)	%	49.0	43.5	49.0	41.6	49.0	39.1	49.0	40.7
d									
e									

3 指定管理業務にかかる収支状況

(単位:千円)

区 分		令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和7年度決算
収入計	A	50,961	50,825	50,290	51,982
指定管理料		47,668	47,668	47,668	49,215
利用料収入	C	2,357	2,476	2,231	2,412
自主事業収入		0	0	0	0
その他		936	681	391	355
支出計	B	49,539	49,744	49,488	50,764
指定事業費		49,539	49,744	49,488	50,764
内、人件費	D	26,991	27,047	26,950	26,624
内、再委託料	E	3,917	1,850	1,994	1,962
自主事業費		0	0	0	0
事業収支	A-B	1,422	1,081	802	1,218
利用料金比率	C/A	4.6 %	4.9 %	4.4 %	4.6 %
人件費率	D/B	54.5 %	54.4 %	54.5 %	52.4 %
再委託費比率	E/B	7.9 %	3.7 %	4.0 %	3.9 %

・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。

・着色セルは、自動計算としている。

・事業費は、前年度以前の決算を記載する。

補足説明	
------	--

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① サービスの履行の確認	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を実施している。	A	A
	外部委託	外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており適切である。	A	A
		外部委託業者に対して協定書等を遵守させている。	A	A
	法令遵守等	法令、条例等に基づき、必要な点検、報告等を行っている。	A	A
	個人情報保護	個人情報保護に関する法令等を遵守している。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等の事故防止対策を講じている。	A	A
	情報公開	情報公開に関する法令等に準じた運用を行っている。	A	A
		協定書に従い、情報を適切に管理し、公表している。	A	A
	管理記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
② サービスの質の評価	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	緊急対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A
		緊急時のマニュアルが整備され、定期的に訓練を行っている。	A	A
		緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行った。	A	A
	財務状況	団体の財務状況は、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準18項目／本施設 項目】	A	A
	施設管理	協定書に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。	A	A
	利用者対応	利用許可、案内等を迅速かつ適切に行っている。	A	A
		利用者に対して設備、備品等を適切に提供している。	A	A
		言葉使い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
③ 安定性	事業運営	事業計画に即し、受託事業を実施している。	A	A
		施設の目的に添った自主事業を実施している。	A	A
		事業内容がサービス水準の向上に寄与している。	A	A
	維持管理	仕様書等に従い、清掃、警備、衛生管理を適切に行っている。	A	A
		仕様書等に従い、施設や設備の保守管理を行っている。	A	A
		備品台帳に基づき、備品を適切に管理している。	A	A
		協定書等に従い、適切に修繕を行っている。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等環境への配慮がなされている。	A	A
	広報活動	事業の開催案内、ホームページの管理等を適切に行っている。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
		要望、苦情等を整理し、遅滞なく市に報告している。	A	A
	利用者アンケート等	利用者アンケート調査等を実施し、その結果が妥当である。	A	A
指定管理者所見 (成果、課題、今後の改善点等)	利用状況	利用者数、稼働率等は、目標に対し妥当な水準である。	A	A
	《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準18項目／本施設 項目】	A	A
	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	予算執行	収支予算書の範囲内で適正に予算を執行している。	A	A
	経費縮減	経費が縮減され、又は縮減に向けた努力を行っている。	A	A
施設所管課所見 (成果、課題、今後の改善点等)	収支状況	収支予算書と比較して、収支状況は妥当である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設 項目】	A	A
	指定管理者所見 (成果、課題、今後の改善点等)	就労している方やロスジェネ世代対象の講座を夜間に実施し、新たな利用者を生むように努めたほか、男性講座では初めて心身の健康を取上げた。展示では利用登録グループの中高校生と協働し、パープルリボンの街頭啓発、パネルの作成・展示を行うなど新たな試みを行った。相談事業については、市民からの認知度を高めるためさらなる周知に努める。利用者数、稼働率は増加しており引き続き利用促進を図る。		
	施設所管課所見 (成果、課題、今後の改善点等)	引き継ぎ時流に合わせたテーマ設定や、対象を固定化せず幅広い世代や境遇の人が参加できる事業を企画・展開している。年間に数多くの事業を実施しているが、一つ一つの事業に対して、センター職員の思いや参加者に伝えたいことなどを丁寧に整理して企画展開をすることが参加者からの感想や満足度からうかがえる。また、利用満足度調査からも、利用者対応や施設管理についても適切に行っていることがわかる。貸室の稼働率については、目標から大きく乖離はないものの、稼働率の上昇を目指すことは公共施設の適切な利用の観点からも重要なことであるため、新規利用者の獲得や施設の利用促進を図る。		
	前年評価	A	総合評価	A

※評価区分

評価基準:	S	= 協定書等の水準を大きく上回っており、優良である。
	A	= 協定書等の水準を満たしており、良好である。
	B	= 協定書等の水準を満たしているが、一部改善が望ましい。
	C	= 協定書等の水準を満たしておらず、改善が必要である。
《総括》:	S	= 評価基準が全てA以上であり、かつSが過半数である。
	A	= 評価基準のうちBが3割未満で、Cがない。
	B	= S、A、C以外
	C	= 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S	= 自己評価、所管評価の《総括》にB・Cが含まれず、かつSが過半数である。
	A	= 自己評価、所管評価の《総括》にCが含まれず、Bが2つ以下である。
	B	= S、A、C以外
	C	= 自己評価、所管評価の《総括》にCが2つ以上含まれる。